

社会貢献活動

花王は、世界中のすべての生活者のKirei Lifestyle と、豊かな共生世界の実現に向けて社会貢献活動を推進しています。

花王が目指す社会課題の解決にあたっては、地域社会やNGO / NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため社員参加型の活動や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のための芸術文化支援、(公財)花王芸術・科学財団による活動も行っています。

社会的課題

気候変動やごみ問題など、私たちの暮らしに深く関わる環境問題は、国際社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。政府、企業などだけでなく、すべての生活者がその課題を意識し、日々の生活の中で行動を変えていく必要があります。

また、清潔・衛生や健康は、人の暮らしの基盤ですが、経済格差、ジェンダーなどさまざまな格差がもたらす不平等から、現代の進歩に見合ったサービスを受容できていない人たちが数多く存在します。新型コロナウイルス感染症の脅威は、石鹸や清潔な水などにアクセスできない脆弱な立場にある30億人*の人々に大きな打撃を与えています。

気候変動の影響から起こる洪水やサイクロン、熱波、水不足などは、衛生や健康への影響も大きく、両者は切り離しては考えられません。

これら社会的課題の解決に向けて、企業はその事業活動を通じて貢献すると共に、企業の強みを活かした技術、啓発や寄付、連携などを通じた包括的な視点での取り組みを行うことがますます重要になってきています。

*WHO/UNICEF Joint Monitoring Programme (JMP) 2019 「Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017: Special focus on inequalities」

方針

花王グループ社会貢献活動のグローバルでの考え方

花王は「豊かな共生世界の実現」をめざし、世界中のすべての生活者のKirei Lifestyleの実現を、事業活動と社会貢献活動が一体となって推進しています。

社会貢献活動では、花王が重視する社会課題や、多様なコミュニティに関わる社会課題を解決すると共に、それらの活動を通じて社員の挑戦や高い志の実現をめざします。

重点分野

- 花王が重視する社会課題
 - ・環境問題
 - ・高齢化
 - ・パンデミック
 - ・多様化の影響
- 社員活力の最大化

活動ガイドライン

- 生活者がKirei Lifestyleに向けて行動を変える後押しをする
- 誰も取り残さず一人でも多くの人にKirei Lifestyleを届ける

- 志を共にする社員・ステークホルダーと共創する
- 人と社会、地球、それぞれを思いやり、つながりを強化する

戦略

リスクと機会

リスク

社会要請や社会課題現状のより深い理解がないまま、ステークホルダーに対する適切な配慮やエンゲージメントが欠如すると、長期的に、顧客や社員をはじめとするすべてのステークホルダーからの信頼を失い、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

機会

近年、生活者は、自分自身の満足や利便性だけでなく、よりよい社会に向けて正しい選択と行動をしたい、また周囲の人々やとりまく社会も同様であってほしい、という思いを抱いて生活しています。

花王は、消費財メーカーとしてこれまで培ってきた技術、知見、ネットワークなどを活かした社会貢献活動を通じ、衛生と水、健康、生活の質の向上、ごみ問題など、暮らしに身近な社会課題解決に短中期で貢献し、生活者の思いに応えることができると考えます。その結果、

社会貢献活動 GRI3-3, 404-2

長期的にブランド価値を向上させ、持続可能な生活 (Kirei Lifestyle) になくなくてはならない存在になることをめざしています。

戦略

活動の選択と集中、グローバル一体での推進体制強化を通じ、一貫性のある戦略的な活動とPRを行うことで生活者からの信頼と共感を獲得し、K25達成への貢献をめざします。

また、社員の社会課題解決への挑戦意欲を最大化することで、より革新的で価値の高いよきモノづくりや社会貢献活動を行います。その結果、長期的なブランド価値の向上をめざします。

社会的インパクト

自社の持つリソースや強みを活かした、美、健康、清潔、環境、生命の事業領域において、生活者の行動変容を促す啓発活動、技術支援、寄付、異業種連携・マルチセクター連携などの、さまざまなかたちで支援を行い、広く社会に貢献していきます。

環境では、環境コミュニケーション・環境啓発により、一人ひとりの生活者が環境に配慮した暮らしを行うきっかけを与えることで、サステナブルな社会の実現に向けた原動力になると考えています。

衛生・清潔や健康のテーマにおいては、正しい衛生習慣の普及と定着により、支援するコミュニティの衛生

状況の改善や、中長期的な生活の質の向上を期待しています。

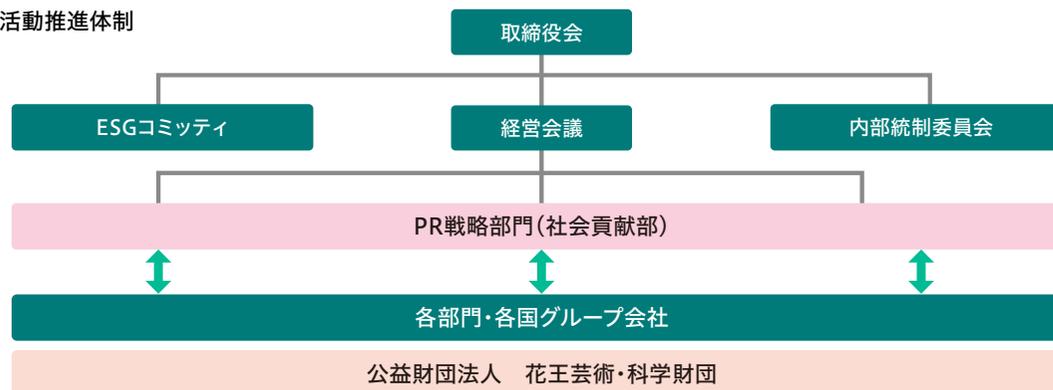
また、社会貢献活動への社員参加を促すことで、社員が社会に広く目を向け、寄付やボランティアなどを通じて、より積極的に社会へ貢献することめざしています。

事業インパクト

責任ある消費行動が拡大する中、目標とする活動の確実な推進と社外への継続的なコミュニケーションにより、顧客からの信頼を獲得することで、結果として長期的なロイヤル顧客の獲得につながることを期待しています。

また、社会貢献活動への社員参加を促すことで、社員の創造性を活性化し、より革新的で価値の高いESG視点のよきモノづくりが実施され、社会に新たな価値を提供できると考えています。

社会貢献活動推進体制



ガバナンス

体制

花王のESGビジョンであるKirei Lifestyleの実現のため、PR戦略部門が、関連部門や日本・グローバルの各社と連携して、取り組みを進めています。

国内外各社・各事業場には、年1回社会貢献活動調査を実施し活動報告を受けると共に、社会貢献活動の概要や費用などについて、年1回、経営会議で報告しています。

P18 Our ESG Vision and Strategy > ガバナンス

教育と浸透

花王社員は、世界中の人々の暮らしに配慮し、事業活動と社会貢献活動を通じて、Kirei Lifestyle実現に貢

社会貢献活動 GRI3-3, 404-2

献していくことが大切だと考えています。

社員が社会課題解決に取り組む人々と交流したり、社会貢献活動に参加する場を提供することで、多様な社会を学んで視野を広げ、創造力、連携力などを高めて、よりよいモノづくりや社会貢献活動に活かすことを促進しています。

ステークホルダーとの協働

世界中の人々がKirei Lifestyleを実現するため、ステークホルダーとの対話・協働を通じ、複雑化する社会からの要請をより深く理解すると共に、一企業では果たせない、よりインパクトの大きい働きかけができると考えています。

清潔・衛生・健康のテーマでは、地域の状況を深く理解し高い専門性を有するユニセフ、UNFPAなどの国連機関やNGO、社会起業家などと、環境のテーマでは生活者を巻き込み、行動変容が効果的に行われるよう、行政や自治体、学校、NGOなどと連携した取り組みを行っています。

また、社員が社会貢献活動へ参加することは、会社へのロイヤリティを高め、事業の発展と社会へのさらなる貢献に向けた活力となると考え、注力してエンゲージメントを行っています。

リスク管理

ステークホルダーに対する適切な配慮の欠如やエンゲージメントの不在は、長期的にステークホルダーからの信頼を失い、花王の将来的なブランド価値の毀損も招くおそれがあります。

リスクと機会のアセスメントのプロセスについては、コーポレート戦略部門が社内で行き組みを実施する各部署担当者の意見を踏まえて花王で想定されるリスクと機会を検討、アセスメントを実施して、経営会議で承認を得ています。

P33 Our ESG Vision and Strategy > リスク管理

目標と指標

中長期目標と2022年実績

中長期目標

美、健康、清潔、環境、生命の事業領域に関わる分野を中心に、事業や製品では直接アプローチできない人々、脆弱な立場の人々も含め、世界中の誰もがこころ豊かで快適な生活を実現できるよう貢献していきます。

さらに、社員が社会貢献活動に参加し、社会との接点をつくり視野を広げることで、事業の発展と社会へのさらなる貢献に活かすことをめざします。

環境問題

● 花王国際こども環境絵画コンテスト

・コンテスト応募者数、展示活動での接触者数の拡大により、生活者のサステナブルな暮らしへの行動変容を促す。

パンデミック／高齢化／多様化の影響

● 花王・ベトナム衛生プログラム

①ベトナム学校衛生プロジェクト

・ユニセフと連携し、2021～2023年の3年間で、支援が必要な地域において学校を中心とした水と衛生サービスへのアクセスを促進・強化し、3年間で、生徒、教員のべ26,580人にアプローチ。

②病院内の感染管理・衛生環境の向上

・ハノイ医科大学病院での感染管理・衛生環境の向上をめざした取り組みを実施。

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

・ハノイ市内小学校で手洗い啓発を実施し、清潔・衛生習慣の定着を図る。

④衛生奨学金制度

・大学院修士課程で食品衛生・衛生管理を学ぶベトナムからの留学生1名に奨学金支援。2018年から3名を支援。

● ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

・低価格生理用品の製造販売をめざす社会起業家の支援と上市、生理用品の普及拡大。

● ピンクリボンキャンペーン

・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援

社会貢献活動 GRI203-1

・ブランドや社内プログラムを通じた上記プログラムへの寄付実施。

社員活力活性化

自社に対する信頼を醸成し、社員間の協働やチームワークを高め、社員が沸き立つ活力のある会社となることをめざす。

2022年実績

環境問題

- 花王国際こども環境絵画コンテスト
- ・第13回コンテスト応募者数(13,214点)
- ・入賞作品の展示活動(社内外66ヵ所で開催、78,852人が観覧)

パンデミック／高齢化／多様化の影響

- 花王・ベトナム衛生プログラム
- ①ベトナム学校衛生プロジェクト
 - ・水と衛生に関して、関係省庁、自治体職員や学校教員を対象とした研修、学校主導の衛生トリガリングセッション、世界手洗いの日イベントを実施。
 - ・ディエンビエン省、ソクチャン省の対象自治体における、水と衛生状況の把握と活動計画策定のための調査実施。
 - ・セラミックフィルター付き浄水器の提供。生徒9,674人、教員533人が清潔な水を継続して使用可能に。

・気候や環境に配慮した衛生設備の設計。設置に向けた計画を進行中。

②病院内の感染管理・衛生環境の向上

新型コロナウイルスのベトナム国内感染拡大に伴い活動実績なし。

③ハノイ市内小学校での手洗い啓発

・ハノイ市内の4つの小学校においてベースライン調査を実施。衛生指導の現状や学校が必要とする支援等を把握。

・ハノイ医科大学主導の教員対象の手洗い研修会を2回実施、計45校の関係者が参加。

・2地区48の小学校において手洗い教室とモニタリング活動を実施。

④衛生奨学金制度

日本の大学院修士課程で留学生を受け入れ。2020年4月より2人目の留学生を受け入れ(2022年3月に卒業)。2023年4月に3人目の留学生が神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程に留学を開始。

⑤ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

・製品上市に向け製造体制の強化を推進。製品のラインアップを当初計画より増やし、生理用ナプキンが必要なすべての人に届け続けるための安定した事業体制構築に取り組んでいる。

⑥ピンクリボンキャンペーンを通じたがん予防啓発

・10月～11月に、アジアや欧州の事業展開国の一部の花王グループ会社において啓発活動を実施

・中高生に向けたがん教育プロジェクトの支援

・化粧品、生理用品など商品ブランドを通じ、売上の一部を、がん教育プロジェクトに寄付。

・社員参加型の寄付プログラム(日本):フォト募金で1,794人参加、がん教育プロジェクトに寄付。

社員活力活性化

社会貢献プログラム参加後の自社への信頼感など、社員活力活性化につながる指標を可視化。

国内では、社会貢献活動への参加実態と意識やニーズを確認し、ターゲットとなる社員に効果的なアプローチを実施した結果、新たな社員の巻き込みができ、国内社員のべ7,832人(2021年5,772人)が社会貢献プログラムやボランティア活動に参加。

グローバルでは、のべ約12,100人の社員が、ボランティア活動やプログラム運営に参加。

社会貢献活動費実績

花王の社会貢献活動を把握するために、国内外の関係会社、事業場、関連部門に活動調査を実施。2022年の社会貢献活動費は、花王全体で13億2,500万円(人的貢献9,100万円、物的支援5億3,800万円、寄付金3億2,200万円、プログラム支援3億7,400万円※事業を通じた社会貢献活動を含む)となりました。

社会貢献活動

GRI203-1

2022年実績に対する考察

2022年は、継続する新型コロナウイルス感染症の影響を受け、延期や中止、見直しが余儀なくされる活動がある一方で、オンラインなど活用しながら新たなやり方で再始動ができた取り組みもできました。また、社員活力活性化に向けて、活動参画後の意識変化の把握と、それに対応したアプローチを実施したことで、より多くの社員が活動に参画しました。

2023年は、グローバル一体となった活動推進に向けて注力していきます。

社会貢献活動 GRI203-1

主な取り組み

環境問題

花王国際こども環境絵画コンテスト

サステナブルなライフスタイルの推進

花王は、世界の子どもたちが身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考えて表現した作品とその思いが、世界中の人々の心を動かし、サステナブルなライフスタイルを実践するきっかけとなることを願って、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を実施しています。

第13回コンテストの実施

2022年は、世界中の子どもたちから、13,214点(日本390点、アジア・太平洋12,355点、米州90点、欧州211点、中東168点)の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、10月に社内外審査員による最終審査が行われ、“いっしょにeco”地球大賞1点、“いっしょにeco”花王賞8点、優秀賞23点が決まりました。2022年12月11日にオンライン形式で表彰式を実施しました。



“いっしょにeco”地球大賞の作品
 タイトル「助け合ってマングローブを植えよう」
 Woraphitcha Phuangprakhon さん(10歳)

NPO・行政等と協働した絵画展示活動

世界の子どもたちの絵とそこに込められた思いやメッセージをより多くの人に伝え行動変容につなげるために、入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

NPO法人ビーグッドカフェや花王グループカスターマーマーケティング株式会社を通じて、自治体環境関連施設やNPO、教育施設などへ絵画の無料貸出を行っています。

2022年の貸出先は、66施設・団体、来場者数の合計は78,852人となりました。

また、自治体がウェブ開催した環境イベントにも参加し、絵画や子どもたちのメッセージ、「こども環境絵画ミュージアム」(ウェブ)などを掲載しました。花王の展示サイトのページビューは約700にのぼりました。



8月 / かがしま環境未来館



花王国際こども環境絵画コンテスト
 こども環境絵画ミュージアム

<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/painting-contest/>

サステナブル・ライフスタイル研究会

サステナブルなライフスタイルの推進

2021年に、花王と(株)ワンプラネット・カフェが主導して設立した企業ネットワーク「サステナブル・ライフスタイル研究会」では、生活密着企業が共同して、生活者を巻き込み、行政や自治体、学校、NGOなどと連携して、暮らしの行動変容の推進に取り組んでいます。

2022年は、6月および7月には、SNSでサステナビリティ情報を発信したりコミュニティに参加したりして

社会貢献活動

いる生活者とのディスカッションを2回にわたり開催、メンバー企業との議論の中から、10～30代生活者とのコミュニケーションの課題を抽出しました。また、8月～10月には、有志の高校生に1ヵ月間の行動変容トライアルを実践してもらうワークショップを行いました。12月には、メンバー企業の社員向けにオンラインセミナーを開催し、本年の成果報告および消費者庁・企業・生活者が一堂で議論するパネルディスカッションを公開しました。花王社員約90名、メンバー企業社員計約150名が参加しました(事後録画視聴含む)。

 サステナブル・ライフスタイル研究会
<https://www.sustainablelifestyle.jp>



生活者とのディスカッション(サステナブル・ライフスタイル研究会)

中国節水キャンペーン

 環境(花王中国)
<https://www.kao.com/cn/sustainability/society/environment/>

2022年「中国清潔・節水キャンペーン(清潔美丽中国行)」を新たな内容でスタート
<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2022/20221021-001/>

タイ北部

“FURUSATO”環境保全プロジェクト

 タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/environment/furusato-thailand/>

花王・みんなの森づくり活動

 花王・みんなの森づくり活動
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/environment/forests/>

パンデミック

花王・ベトナム衛生プログラム

QOLの向上

清潔で美しくすこやかな習慣

花王は、ベトナムにおける清潔・衛生習慣の定着に貢献するため、「ベトナム衛生プログラム」を実施しています。このプログラムは、「衛生管理リーダー育成プログラム」「衛生奨学金制度」「楽しい手洗い教室」「学校衛生プロジェクト」の4つの取り組みで構成されています。

衛生管理リーダー育成プログラム

病院内の感染管理・衛生環境の向上に向けた取り組みを、ベトナム ハノイ医科大学と協働して進めています。2022年は、前年に実施した手指衛生遵守率向上に向けた取り組みをさらに広げることを検討していましたが、新型コロナウイルスへの対応のため、病棟での具体的な取り組みを行うことができませんでした。

衛生奨学金制度

ベトナムの保健衛生分野で活躍する食品衛生管理の専門家を育てることで、人々の健康な暮らしを実現していくことをめざしています。神奈川県立保健福祉大

社会貢献活動 GRI203-1

学と協力し、大学内に「花王衛生奨学基金」を設け、留学生に奨学金を提供しています。

2023年4月に3人目の留学生が神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程に留学を開始しました。

楽しい手洗い教室

ハノイ医科大学と協働し、2020年より小学生向けの手洗い啓発活動を行っています。2022年は、ハノイ市内の4つの小学校においてベースライン調査を実施し、衛生指導の現状や学校が必要とする支援などを明確にしました。またハノイ医科大学主導の教員対象の手洗い研修会を2回実施し、計45校の関係者が参加しました。

そのほか、2地区内48の小学校において、手洗い教室とモニタリング活動を実施しています。

ユニセフ「学校衛生プロジェクト」を支援

衛生環境が整っていない、山間部や農村部、少数民族が多い地域では、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

ベトナム南部・メコン川流域のアンザン省での成果を受け、2018年から少数民族が多い北部山岳地域ディエンビエン省に、2022年からは自然災害の影響を受ける南部のソクチャン省にも支援を拡大。

2022年は、2省内の約200校にて水と衛生に関する

調査を実施。30%以上の学校に十分に清潔な水と適切な衛生設備がなく、50%以上の学校に子どもたちのための手洗い場がない実情が判明しました。また、安全な水と衛生的な環境、習慣に関連した研修を自治体関係者や学校教員を対象に実施。研修受講者からさらに408名の教員が知識を身につけ、学校を中心に活動しました。そのほか、支援対象校にセラミックフィルター付き浄水器を寄贈し、およそ1万人の生徒や教員が清潔な水を継続して使用できています。併せて、地域の気候の変化や環境に配慮した衛生設備の導入が求められており、現在設置計画が進んでいます。



生徒たちとの衛生トリガリングセッションの様子 ©UNICEF Viet Nam

月経衛生環境向上への貢献

インドネシアの中学生に向けた月経衛生教育

 インドネシア月経衛生管理プロジェクト
<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/education/id-hygiene/>

ウガンダ月経衛生環境向上プロジェクト

2019年2月より、国連人口基金(UNFPA)とパート

ナーシップを組み、ウガンダで低価格な国産生理用ナプキンの製造・販売をめざす若手社会起業家が立ち上げた企業「エコスマート」を支援しています。

アフリカには、貧困により生理用ナプキンを購入できず、使い古した布の切れ端や植物の葉などで代用している女性が多くいます。その結果、深刻な感染症にかかるケースが見られます。また、生理用ナプキンを使用できないために生じる衣類の汚れを気にして学校を休み、授業についていけなくなって退学することも少なくありません。

支援によりウガンダの女性が継続的に生理用ナプキンを使用できるようになり、月経期間をより衛生的で快適に過ごせるようになることを期待しています。また、月経期間中も休まず学校に通い、男女共に等しく学べる環境は、社会全体のさらなる発展に寄与すると考えています。

2022年、エコスマートは製品の上市に向け製造体制の強化に取り組みました。製品のラインアップも当初の計画より増やし、生理用ナプキンが必要なすべての人に届け続けるための安定した事業体制構築をめざしています。



生産現場で防護服に身を包むエコスマートチーム ©EcoSmart Uganda

社会貢献活動

教材提供による学校教育支援

清潔で美しくすこやかな習慣

サステナブルなライフスタイルの推進

P51 清潔で美しくすこやかな習慣

多様化の影響

ピンクリボンキャンペーンを通じ、がん教育を支援

QOLの向上

2007年から、毎年10月～11月の2ヵ月間、「花王グループピンクリボンキャンペーン」を実施しています。期間中は「あなたと、あなたの大切な人のために」をスローガンに、乳がんの早期発見の啓発のため、国内外でさまざまな取り組みを展開しています。

日本での主な取り組みのひとつとして、認定NPO法人 乳房健康研究会主催の「ピンクリボンアドバイザーによるがん教育プロジェクト」を支援しています。中学校・高校でのがん教育を実施するもので、日本人の2人に1人ががんにかかる中、生徒たちの健康意識の向上や、その保護者世代への影響も期待されています。

2022年は、化粧品ブランド「KANEBO」にて対象商

品の売上から一定額を「がん教育プロジェクト」に寄付しました。2013年から継続している取り組みで、毎年対象商品を設定し、乳がんの啓発に関わる活動を支援しています。また、生理用品ブランド「ロリエ」では女性の健康を応援するキャンペーンを実施し、ブランドサイトを通じた情報発信のほか、ブランドTwitterアカウントにおいてリツイートキャンペーンを行い、結果に応じた額を寄付。こちらも「がん教育プロジェクト」のほか、子宮頸がんの啓発を行う活動に寄付しました。

そのほか、社員参加型の寄付プログラムや、特例子会社花王ピオニー(株)とコラボレーションしたピンクリボンキャンペーンビジュアルの制作などを実施し、積極的な啓発活動を行いました。

さらに、海外を含めた一部化粧品店頭やオンラインメディアを活用した啓発活動、異業種企業とのコラボレーション企画など、少しでも多くの方にメッセージを届けるために積極的に活動しています。

P49 QOLの向上>花王グループピンクリボンキャンペーン2022

花王グループピンクリボンキャンペーン2022
<https://www.kao.com/jp/pinkribbon/>



中学校でのがん教育授業の様子

一般社団法人 日本ボッチャ協会に協賛

QOLの向上

花王は、パラスポーツの「ボッチャ」を通じ、共生世界の実現と多様化という社会課題の解決に社員と共に取り組んでいます。2019年よりゴールドパートナーとして日本ボッチャ協会に協賛し「花王ボッチャ1万人プロジェクト」として、2025年までに社内外ののべ1万人にボッチャを体験してもらうことを目標に掲げています。

パラリンピックが終了した2022年も、ゴールドパートナーを継続し、資金面の支援のみならず、事業活動の強みを活かし、大会開催時等に安全・安心に活動できるように衛生製品等の提供を行いました(合計111梱提供)。

社内体験会に加え、2022年は新たに社員自らが発信者となり家族や知人を巻き込んで活動する「おうちでボッチャ」プログラムを11月からスタートさせ、13件(のべ50人)が参加しました。一方、事業活動を通じて、地域の販売店等と共にイベントでボッチャ体験会を15件(のべ1,189人)実施しました。また、和歌山事業場では、レクレーション活動として初めて職場対抗ボッチャ大会を開催し、障がい者が働くプロダクション部門 和佐グループ社員も含め31チーム、237人が参加しました。さまざまな人との交流を通じて共生世界と多様化について感じ考える場となりました。

2022年度のボッチャ体験者は、社内外でのべ1,501

社会貢献活動 GRI203-1

人、1万人の目標に向け、2019年からの累計でのべ1,583人となりました。



和歌山事業場職場対抗ポッチャ大会
障がいのある社員が働くプロダクション部門和佐グループも参加

情報のバリアフリー



バリアフリーの推進

<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/community/barrier-free/>

テーマ横断

花王社会起業塾

花王は、持続可能なよりよい社会を次世代に引き継ぎたいと考え、2010年より、社会課題を解決する若手社会起業家の育成を支援する「花王社会起業塾」を実施しています。2022年度は、子どもの貧困、居場所づくりによる孤独の解消、日本で暮らす外国人支援の課題

に取り組む3組の若手起業家を塾生として採択しました(2022年度を含め、累計38組を採択)。

2022年は、以下の3点を目標に起業家と社員が接する企画を計3回実施しました。

- ①参加社員数を、前年の2倍に増やす
- ②花王社会起業塾への共感を通じて、自社に対する信頼を高め、社員活力の最大化に寄与する
- ③社員の起業家精神や社会課題解決意識を高める

企画内容の充実およびターゲットを絞った参加促進活動の結果、参加者数はのべ674人(前年224人)に増加しました。参加後のアンケートでは、「花王が若手起業家を支援していることを誇りに思う」といった声と共に、特に若い世代から、「刺激を受けた」「自身の業務の参考になった」という声が多数寄せられました。



2022年度社会起業塾「合宿研修」集合写真
※撮影時のみマスクを外しています。

花王ハートポケット倶楽部

2004年に開始した花王グループ社員の有志による社会的支援を目的とした寄付組織です。毎月の給与から1口(50円)以上の任意の金額を積み立て、NGO・NPO・市民団体等への寄付、社員が参加するボランティア活動の支援、広域災害発生時の緊急支援などを行っています。また、社員がボランティアなどで社会参加する機会を提供し、社会課題への感度を高める場となっています。今年度は若年層の参加を促進するための新企画として、「おにぎりアクション」を実施しました。この企画は、おにぎりの写真を1枚投稿するごとに、アジア・アフリカの子どもたちに100円(5食分の給食に相当)を寄付できるというものです。投稿写真500枚という目標に対して1,007枚(参加社員388人)が集まり、社員の潜在的な「社会の役に立ちたい」という思いをかたちにすることができました。

- ・会員数3,417名(2022年12月20日現在)
- 2022年度活動実績
- ・寄付件数41件/寄付金額10,007千円
- ・上記に加え、花王(株)からのマッチングギフト(同額寄付)3,747千円
- ・社員ボランティア活動参加者 のべ388人(おにぎりアクションは含まず)
- ・事業場地域の支援先決定のための投票参加者 のべ1,314人
- ・社員から支援先への応援メッセージ のべ833件

社会貢献活動

・社内向け活動レポートを年1回発行



「おにぎりアクション」写真コンテスト

地域との共生

芸術文化活動支援・若手芸術家育成支援

花王では、優れた芸術文化の発展・継承と人々の豊かな生活文化の実現に寄与することを目的に芸術文化活動を支援してきました。日本の芸術文化活動の基盤を支える支援も一部継続しながらも、地域社会を活性化させるプログラムや次世代育成のプログラムへの支援に軸足を置き活動を進化させています。

東京音楽コンクールの主催

2003年より、東京音楽コンクール(共催:東京文化会館・読売新聞社・東京都)を主催し、日本の音楽界の次世代を担う人材の発掘・育成の活動を支援しています。各部門優勝者がオーケストラと共演する優勝者コンサ-

トを開催するほか、入賞者には、単独公演の開催を含め、公演機会を提供し、東京文化会館が5年間バックアップを行うなど、育成に重点を置いた支援が特長のコンクールです。

コロナ禍ではありましたが、感染対策を講じて予定通り開催しました。4月にピアノ、金管、声楽の3部門の応募を受け付け、3部門の応募総数は445名、8月の本選において12名の入賞が決定しました。

また、2022年度は、過去の受賞者13名が国内外のコンクールにおいて優勝、上位入賞を果たすなど、すばらしい活躍をしました。



第20回東京音楽コンクールピアノ部門表彰式
写真:堀田 力丸 写真提供:東京文化会館

K-BALLET YOUTH

花王は2013年より、熊川哲也氏を総監督とするジュニア・カンパニー K-BALLET YOUTH の公演に特別協賛しています。これは、次世代の才能あるダンサーの発

掘とプロフェッショナル・バレエカンパニーと遜色のない環境での実践の場を提供し、次世代の芸術家育成に取り組む K-BALLET YOUTH の趣旨に賛同することによるものです。2013年の第1回記念公演から、これまでに総勢約500名の若きダンサーが参加し、プロのダンサーとして活躍する参加者も数多く、多くの若者がK-BALLET YOUTHでの経験を糧に活躍しています。

2022年は、コロナ禍により延期となった、第5回記念公演『ドン・キホーテ』に特別協賛しました。今回は、初めての試みとして、Kバレエスクールの系列校以外に門戸を広げオーディションを実施し、200名の応募者の中から選ばれた90名の若手ダンサーが参加しました。コロナ禍でリハーサルはオンラインを活用しながら実施するなど、さまざまなことが従来と変わる環境におかれましたが、公演当日は多く観客から賞賛の声が寄せられました。



第5回記念公演「ドン・キホーテ」
©言美歩

社会貢献活動

NPO 法人ミュージック・シェアリング指導プログラムへの協賛

花王は、ヴァイオリニストの五嶋みどり氏が1992年に設立した認定NPO 法人ミュージック・シェアリングが実施する「ICEP」に協賛しています。「ICEP」は、五嶋氏と海外の若手演奏家がカルテットを結成し、アジアの開発途上国の学校・子ども病院・児童施設・高齢者施設などに本物の音楽を届け、同時に、若手音楽家の社会貢献活動の場を提供するプログラムで、花王の次世代育成の思いと重なり、2008年より支援しています。2020年からは、新型コロナウイルス感染症拡大により実施できませんでしたが、オンラインを活用し、音楽を学ぶ機会を提供する「リスニングプログラム」に協賛しています。

「リスニングプログラム」は、五嶋氏による指導動画を10回シリーズで配信するもので、2022年は、日本では大阪府枚方市で市内の小中学校64校に配信しました。日本の学校や病院、アメリカ・オランダ・カンボジアなどの日本人学校にも配信されました。



メセナ支援

<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/mecenat/>

花王ファミリーコンサート



花王ファミリーコンサート

<https://www.kao.com/jp/sustainability/society/community/family-concert/>

社会貢献活動

公益財団法人 花王芸術・科学財団

花王芸術・科学財団は、豊かな生活を営んでいく上で必要不可欠な芸術文化と科学技術の振興および発展向上と共に、文理融合領域の研究発展にも寄与することをめざす、芸術と科学の支援を併せ持つユニークな財団です。

1990年に、花王株式会社の創立100周年を記念した拠出を受け設立され、「助成事業」「顕彰事業」「関連事業(文理融合の研究支援)」の3つの事業を柱に活動しています。

助成事業の芸術文化部門では、美術展覧会や音楽公演等の活動助成、美術や音楽の学術的な研究への助成を、科学技術部門では大学院修士課程の学生に対する給付型の「花王佑啓奨学金」や、化学・物理学、医学・生物学の分野で独創的、先導的な研究を行う若い研究者に対し「花王科学奨励賞」という名の助成を行っています。

また、日本の研究者総数に占める女性研究者の割合が低いことへの課題解決として、2021年から任期付き雇用の女性研究者への助成支援「花王 Crescent

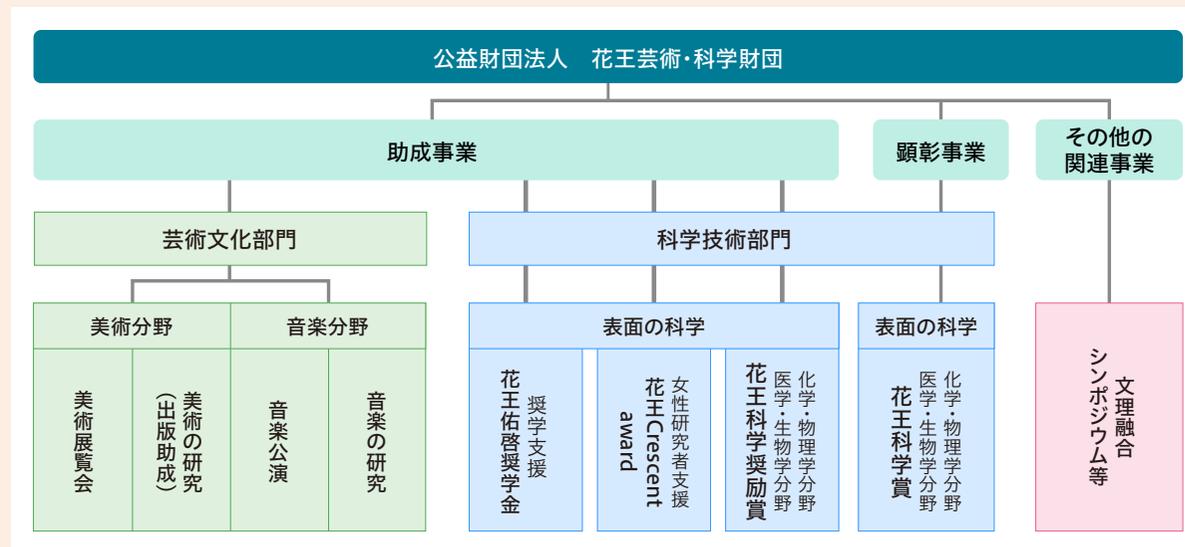
award」を立ち上げています。ワーク・ライフ・バランスに配慮し、研究の継続を助けるための用途自由度の高い助成制度で、男女共同参画社会の形成を促進し、よりよい社会の実現をめざしています。

顕彰事業では、化学・物理学、医学・生物学の基礎・基盤研究において独自の成果をあげた研究者に「花

王科学賞」を贈り、称えています。

コロナ禍などさまざまな不安定な社会環境下においても、芸術文化活動と科学技術研究への安定した支援の継続に努め、ひいては日本の芸術文化と科学技術の振興および発展向上に寄与したいと考えております。

財団事業組織図



社会貢献活動

JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術から生まれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。

その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象とした科学技術に関する自由研究コンテスト「JSEC(高校生・高専生科学技術チャレンジ)」(主催:朝日新聞社、テレビ朝日)に特別協賛しています。花王の研究者も審査に参画し、『花王賞』など3件の賞を授与しています。

20周年記念大会に当たる2022年は、応募件数を増やす取り組みとして、朝日新聞社と共に新たに以下の2つの企画を実施しました。

- ①高校生に企業の研究開発活動の魅力を伝える動画『洗剤研究から宇宙へ』(宇宙ステーションで使用する製品の開発)を公開
- ②参加賞として、動画で紹介した製品と同じ知見から開発された製品を応募者全員に進呈

その結果、2022年度は過去最高を大きく上回る339研究作品の応募がありました(過去最高は267研究作品)。



JSEC2022 受賞・入選研究

<https://manabu.asahi.com/jsec/>

受賞者を招待するスタディツアーをオンラインで開催。新たな取り組みとして、現在、博士課程で研究活動を継続している先輩受賞者にも登壇いただき、社員154人(前年56人)が参加しました。高校生からは、「大勢の社員に対して発表するのは緊張したが、自分の研究に興味を持ってくれて嬉しかった。」「先輩のように、自分が好きな研究を続けたい。」といった感想が寄せられました。社員からは当日の質疑やアドバイスに加え、後日、参加した生徒たちへのお礼と応援のメッセージ92件を届けました。



JSEC2022「最終審査会」(12月11日開催)

災害支援

東日本大震災への取り組み

既存の社会貢献のプログラムや花王のリソースを活かしながら、NGO/NPO、企業、多様な組織と連携し、被災地の生活者に寄り添い、現地のニーズや課題に沿った活動を実施しています。現在は「心のケア」と「自立的復興」の2つの柱に取り組んでいます。「心のケア」では、スマイルとうほくプロジェクトに2012年から協賛し、仮設住宅や災害公営住宅訪問を通じた交流や新しい暮らしを応援する取り組みを実施しています。「自立的復興」では、東北の復興に向け、中心となって活躍している復興リーダーの支援や社員ボランティアの活動を通じて、産業の復興やコミュニティづくりを支える活動を行っています。花王社員による2022年の活動は以下の通りです。

震災からの学びを未来へ伝える

いつまでも震災を忘れないという思いのもと、より広く社員が東北に関わる機会として「東北と『食』でつながろう!」をテーマに、3月7日~11日、全国事業場11カ所の食堂で、新型コロナウイルスの感染防止策をとり、東北の食材を使用した郷土料理等の提供と、黙食が推奨される中でも耳を傾けてもらい「震災からの学びを未来に伝えよう」と題した、東北の復興リーダーたちが語る今と未来について音声コンテンツをつくり社

社会貢献活動 GRI203-1

内限定で公開しました。社員からは「これからも東北を応援していきたいと感じた」「防災・減災を考えるきっかけになった」などの声が寄せられました。



社員食堂で音声コンテンツを配信

ウクライナ危機への支援

花王より国連 UNHCR 協会を通じ UNHCR へ6,450万円(50万ユーロ)の寄付を実施しました。加えて、国内外の花王グループ社員を対象に募金を呼びかけ、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) などに寄付を実施しました。

NEXT TOHOKU ACTION

岩手日報、河北新報、福島民報が主催する「スマイルとうほくプロジェクト」は2022年3月より「NEXT TOHOKU ACTION (ネクスト東北アクション)」へ。花王グループカスタマーマーケティングが協賛を継続し、東北の未来をつくるお手伝いを続けています。

その他の災害支援

基盤整備活動支援金

花王より社会福祉法人 中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」へ500万円の寄付を行いました。